

平成30年度 岡本特別支援学校 学校評価

<p><教育目標> 児童生徒の病状、障害に応じた教育を行い、一人ひとりの個性、能力、創造性を伸ばし、社会に参加、貢献できる人間を育成する</p>
<p><学校経営方針> 1 子どもを中心に据え、一人一人の実態とニーズに応じた教育を行う 2 安全で安心して学べる学校環境づくりに努める 3 学校・家庭・病院・地域が連携した学校づくりに努める 4 信頼され、教職員が働きがいのある学校</p>

A:達成できた B:概ね達成できた C:改善が必要

重点目標	評価項目	現状	達成目標	評価の観点	評価	改善策
<p>1 学習指導の充実</p> <p>○分かる授業を展開するため、教材開発や指導法の研究に努めるとともに、将来を見据えた指導を推進し、児童生徒に寄り添った取組を推進する</p> <p>・個別の指導計画の適切な作成と充実・活用 ・個々のニーズに応じた指導法・教材の工夫 (ICT機器の活用含む) ・キャリア教育の視点を取り入れた学習指導の充実</p>	<p>【小学部】 個別の指導計画の内容の充実と活用</p>	<p>・児童の実態が昨年度以上に多彩になっている。昨年度不十分であった、学部で協力して取り組んでいく体制づくりに取り組んでいこうと考える。</p>	<p>・部や学級内で情報を共有しながら年間指導計画(学部書式)を試作・実践し、内容の充実と活用を図る。</p>	<p>・学部独自の年間指導計画を試作・実践できたか。 ・部内や学級内で定期的な報告・検討の場を設けられたか。</p>	<p>【B】 ・書式の試作と実践、部内での情報共有などは概ね行えたが、書式や活用方法についての検討は引き続き行う必要がある。また、情報共有だけでなくそれぞれの児童の課題などについて部内で指導法や事例検討などが進められると良い。</p>	<p>・学部の書式を検討しながら、学部内で情報共有・意見交換の場を設定し、指導に活かすことができるよう体制づくりに取り組む。</p>
	<p>【中学部】 ・個々のニーズに応じた指導法・教材の工夫</p>	<p>・生徒一人ひとりの実態が異なり、個々のニーズがちがう。 ・一人ひとりの実態を把握し、情報交換を行い、共通理解を図り対応する。</p>	<p>・個々の実態に応じた授業を展開する。</p>	<p>・朝の打合せや学部会、日々の学習の様子の情報交換を丁寧に行えたか。 ・実態に応じた教材等を工夫し、効果的に実践に活かすことができたか。</p>	<p>【A】 ・情報交換を丁寧に行えた。 ・実態に応じて教材を工夫し、実践した。生徒の成長が見られた。</p>	<p>・今後も継続していく。更に生徒の成長につながる教材の工夫や指導の在り方について情報交換を行う。</p>
	<p>【やしお学級】 ・児童生徒にとつての確かな学びを展開するための指導の計画や評価の実施</p>	<p>・昨年度よりこれまでの年間指導計画から、単元指導計画の作成を開始し、年度によって基本方針が変わることのないような指導体制の構築を目指している。</p>	<p>・単元指導計画の活用と評価を実施し、振り返りと見直しを行う。</p>	<p>・長期的な視点で単元指導計画を作成するために、各単元の実施前・中間・実施後の話し合い等による評価の実施と、それによる改善を行うことができたか。</p>	<p>【B】 ・様々な形で情報交換等を行うとともに個々の実態に応じた授業を実施できたが、単元指導計画の評価と改善という意味では実施が不十分だった。</p>	<p>・単元指導計画と各単元毎の月案の目標についての見直しを行い、評価の方法について、より効果的な方法を模索していく。</p>
	<p>【進路・卒後支援部】 ・キャリア教育の視点を取り入れた学習指導の充実</p>	<p>・昨年度、各学部でキャリア教育重点目標を決め、達成に向けて学習活動に取り組んだ。さらにいろいろな学習内容が考えられる。</p>	<p>・キャリア教育全体計画に基づき各学部で重点目標を設定し、キャリア教育の視点を意識した具体的な実践を行い、指導事例を進路だよりに掲載する。</p>	<p>・キャリア教育全体計画に基づき各学部で重点目標を設定し、キャリア教育の視点を意識した具体的な実践を行い、指導事例を進路だよりに掲載できたか。</p>	<p>【B】 ・予定通りキャリア教育実践を進路だよりに掲載できたが、普段から学校全体でキャリア教育を意識できるような取り組みが必要である。</p>	<p>・年度当初の職員会議でキャリア教育全体計画を周知する。 ・引き続き各学部での進路説明会を行い、進路指導やキャリア教育の充実を図る。 ・進路だよりの内容を充実を図り、各学部での実践内容を知る機会を増やす。</p>
<p>2 健康・安全の充実</p> <p>○児童生徒が心身ともに安全で安心して学べる学校環境づくりに向け、施設・設備の点検、マニュアルの点検を行うとともに、実践的な対応力の育成を目指す</p> <p>・防災教育の充実 ・医療的ケアの安全実施 ・施設・設備の保守点検の徹底及び環境整備 ・各種マニュアル等の点検整備</p>	<p>【高等部】 ・生徒が心身ともに安全で安心して学べる学校環境作り</p>	<p>・身体面に対して細心の注意が必要な生徒や心理面への配慮を多く必要としている生徒がいるため。</p>	<p>・生徒一人ひとりが心身ともに安心し、安全に学校生活を送るための配慮事項を、常に意識しながら生徒と関わる。</p>	<p>・生徒一人ひとりの配慮事項を共通理解する場を日常的に設けることができたか。 ・新たに生じた課題について学部会等で検討し、共通理解して生徒に関わることができたか。</p>	<p>【A】 ・本人、保護者を始め、関係諸機関と連携し、生徒の心身の状況に関する十分な情報や配慮事項を確認し、学部会や記録、朝の打ち合わせの連絡等で共有することができた。</p>	<p>・生徒の配慮事項などの情報を共有することはできたが、教員一人ひとりがそのことを常に注意しながら生徒と関わる必要がある。</p>
	<p>【健康安全指導部】 防災教育の充実と実践力の構築</p>	<p>・昨年度、宇都宮気象台の方を講師にお招きし、教職員対象の防災研修を実施した。今年度も夏季休業中に実施を予定している。 ・各種避難訓練実施の際には、児童生徒への事前事後学習を学級担任が行っている。</p>	<p>・教職員が研修を重ねることで、自らの判断で、自分の身や児童生徒の身を守ることができる力を身につける。 ・児童生徒が「自分の身を自分で守る」ことができる力を身につけられるような事前事後学習を実施する。</p>	<p>・教職員が適切な判断力を身につけることができたか。 ・児童生徒が自ら考え行動することができたか。</p>	<p>【B】 ・今年度も宇都宮気象台の方を講師に招いて、教職員対象の防災研修を実施することができた。先生方の意識も高まりつつある。まだ、教職員が自分で判断して適切な避難を即決することが難しい様子も見られるので、引き続き研修等を重ねていきたい。 ・係内で検討し、事前事後学習の資料を準備した。指導は、各学級の実態に応じて学級担任が実施した。児童生徒の様子にも少しずつ変化が見られてきた。</p>	<p>・防災研修に終わりはないので、今後も継続した研修等を企画していく。 ・事前事後学習の資料については、今後も検討し、児童生徒の実態に応じた内容を精選していく。また、継続して指導することで学校にいるときだけでなくどんなときでも「自分の身を自分で守る」ことができるような児童生徒の育成を目指していきたい。</p>

重点目標	評価項目	現状	達成目標	評価の観点	評価	改善策
3 地域連携 ○学校・家庭・病院・地域の連携強化を図り交流及び共同学習の充実、地域に根ざした特色ある学校づくりに努める ・学校間交流・地域交流の推進 ・カリキュラムに沿った地域での体験活動の検討 ・広報活動の充実 ・高校生支援の継続検討	【おおり分教室】 ・地元校との効果的な連携を図るため、アンケート調査を実施	・入院中の分教室と地元校との連携について評価する方法が確立されていない。	・アンケート内容を検討する。様々な病状や復学のスタイルに対応できるように配慮する。 ・実際にアンケート調査を実施、回答を整理する。	・様々なケースに対応可能なアンケートが作成できたか。 ・実際にアンケート調査を実施し、結果を整理できたか。	【B】 ・アンケートを作成し、調査を開始することができた(11校実施、5校回収) ・回答の整理、分析等は今後の作業になる。	・必要な情報を確認して、アンケート内容の充実を図る。 ・結果の分析をし、地元校との連携上の課題を明確にしていく。
	【教育計画部】 ・地域との連携強化	・本校の地域への啓発が十分ではない。 ・地域資源について、十分把握されておらず、活用も不十分である。	・地域への啓発活動を進めることができる。 ・地域資源について把握し、活用方法等マニュアルを作成し、活用することができる。	・地域への啓発を行うことができたか。(学校だよりの発行、作品展の開催、ホームページの活用等) ・地域資源の活用方法を整理し、活用できたか。(地域資源の把握、職員のニーズの把握、活用方法の整理)	【A】 ・学校だよりの発行、作品展などを通して地域への発信、啓発を行うことができた。 ・地域資源の活用については、不十分だった。	・今年度の成果(学校だよりの発行、作品展の開催)をふまえて引き続き地域への啓発を行う。 ・地域資源の内容、活用の手順を校内向けに地域連携だよりなどで職員に周知する。合わせて校内のニーズの把握を行っていく。
	【学習指導部】 ・相手校・団体と相互理解を図った交流及び共同学習の実施	・特別な配慮を必要とする児童生徒が多く在籍しているため、交流及び共同学習を実施するには、細心の注意が必要であることを伝えている。	・相手校・団体と連携し、相互理解を図りながらPDCAサイクルに基づき交流及び共同学習を実施することができる。	・相手校・団体と話し合いを行い、相互理解をもって計画を立て、実施することができたか。 ・実施後、相手校・団体と話し合いを行ったり、アンケートを行ったりすることで、次回につながる評価を行うことができたか。	【A】 ・担当者同士で連携を図り、充実した交流および共同学習ができたと思われる。今年度、アンケートを実施することができた。頂いたアンケートは次年度に向けて参考となった。	・相手校の児童生徒へのアンケートについては、記述式だけでなく、選択項目を入れるように改善していきたい。
【渉外部】 ・PTA活動の充実	・活動に参加できる保護者が少ないため、アンケートを実施して、保護者の意見をまとめている。参加できる保護者にも、事前に意見を考えてもらえるため、話し合いに役立っている。 ・参加できなかった保護者には活動の様子が伝わらない。	・アンケートの実施時期や項目等を保護者の意見を取り入れ改善する。 ・活動内容・様子・成果等を校内外に発信する。	・アンケートの改善をすることができたか。 ・活動の内容等を校内掲示やホームページで発信することができたか。	【A】 ・会長の意見を聞き、保護者の負担を減らすため、行事の感想を学期末に行うアンケートの中に取り入れた。 ・ホームページや便りなどで、PTA活動を十分に校内外へ発信することができた。	・今後もアンケートの内容の見直しを適宜行い保護者の声を活動に生かしていく。 ・PTA総会時にホームページのお知らせをし。更に周知を図る。 ・研修会以外のPTA活動に関しても校内掲示を検討する。	
4 協働体制・専門性の向上 ○信頼され、頼りにされる学校を目指し、協働体制の確立・専門性の向上を図り、働きがいのある学校づくりを目指す ・連携が円滑に図られ信頼関係に基づく協働体制の確立 ・一人一人が高い資質と実行力を伴う学校組織の強化 ・病弱特別支援学校としての専門性の向上 ・授業に生かせる研修の充実	【学籍情報管理部】 ・情報管理において、一人一人が高い資質と実行力を伴う学校組織の強化	・個人情報などの保護管理のため、パスワードを使用している。セキュリティの強化やPCの情報をより有意義に活用できるように、全職員の情報管理についての意識やスキルを高める必要がある。そのため、情報資産取扱の手引きを活用しやすいように適宜内容を改訂している。また、ICT機器の活用についての意識を高めるため、必要に応じて研修会を実施する予定である。	・情報資産取り扱いは手引きを活用して、PCの情報を適切な環境で管理し、活用することができる。 ・研修会を通して、情報管理についての意識やスキルを高めることができる。	・情報資産取扱の手引が活用されたか。 ・情報漏えいがなかったか。 ・研修会等を通して、教職員が情報管理についての意識やスキルを高めることができたか。	【B】 ・研修会を通して、情報管理についての意識の向上を図ることはできたが、ICT機器の活用については、教育現場で適切に使えるように意識やスキルの向上を図る必要がある。	・情報セキュリティ研修やICT機器の活用についての研修を実施して、職員の意識やスキルの向上を図るようになる。 ・改訂した情報資産取り扱いは手引きを校務用データで共有すると共に、冊子にして使いやすい環境へ整える。
	【支援部】 ・連携が円滑に図られ信頼関係に基づく協働体制の確立	・昨年度末、各業務の流れや資料等をまとめた「支援部ファイル」を作成したが、不十分な点や今年度変更した点がある。また、「やしお学級の就学」に関しては、支援部として関わる、医療・各市町教育委員会との連携においての課題・反省点が残っている。	・支援部業務の流れ、関係各所との業務分担を明確にしたマニュアルを作成し、職員に周知することで、連携が円滑に図れるよう体制作りをする。	・分教室、各主事主任、担任等と連携を図る業務について、分担や流れを明確にすることができたか。 ・教員全員が「支援部の業務の流れ」が分かるようなマニュアルを作成し、周知することができたか。	【B】 ・支援部マニュアルを作成し、業務ごとに関係各所との連携や業務の流れについて、一覧にした。また、マニュアルについて教員全員に周知することができた。しかし、書式の統一や内容の精査、分かりやすさ等、不十分な点も残る。	・今後も内容や書式を見直し、精査しながら作成を継続し、よりよいものにしていく。